

袖ヶ浦福祉センター養育園利用者の死亡事件等について

平成 2 5 年 1 2 月 1 2 日
 千葉県健康福祉部障害福祉課
 0 4 3 - 2 2 3 - 2 3 5 2

県立施設袖ヶ浦福祉センター養育園（指定管理者：社会福祉法人千葉県社会福祉事業団）の利用者（1 9 歳 男性）が、本年 1 1 月 2 6 日に死亡しました。

このことに関し、1 2 月 1 1 日に障害者総合支援法等に基づく立入検査を実施した結果、同施設の 5 人の職員が、死亡した利用者に対し、それぞれ暴行を行っていたことが確認されました。また、当該 5 人の職員が、通常の支援の中で、亡くなった利用者とは別に、利用者 9 名に対し、それぞれ暴行を行っていたことも併せて確認されました。

県立施設で、このような不祥事を起こし、御本人や御親族に大きな苦痛や悲しみを与え、また、施設の他の利用者や県民の信頼を損なう事態を招いたことを、深くお詫び申し上げます。

今後、このようなことを二度と起こさないよう、再発防止に向け万全を期してまいります。

1 死亡した利用者

1 9 歳男性

2 その他暴行を受けたことが確認された利用者

1 1 歳から 2 6 歳までの男性 9 名

3 暴行行為が確認された職員

男性職員 5 名

4 施設の概要

| | |
|---|--|
| 名 称 | 袖ヶ浦福祉センター 養育園 (児童福祉法第 4 2 条第 1 号の規定による福祉型障害児入所施設) (障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第 5 条第 1 2 項に規定する障害者支援施設) |
| 定 員 | 8 0 名 |
| 所 在 地 | 袖ヶ浦市蔵波 3 1 0 8 番の 1 |
| 事業内容 | ・知的障害のある児童を入所させて、保護するとともに、日常生活の指導及び独立自活生活に必要な知識技能の付与を行う。 ・主に知的障害者に対して、入所・排泄・食事の介護等を行うとともに創作的活動又は生産活動の機会を提供する。 |
| 開設年月 | 昭和 4 2 年 4 月 |
| * 現在は、社会福祉法人千葉県社会福祉事業団（理事長：近藤敏旦）が、指定管理者として、施設の管理運営を行っている。 指定管理期間：平成 2 3 年度～ 2 7 年度 | |

5 経過

○ 11月25日（月）

利用者が養育園内で夕食後に呼吸困難となり救急搬送。26日未明に搬送先医療機関で死亡（「敗血症による多臓器不全」と診断）

○ 11月29日（金）

警察から、28日（木）に検視及び解剖をしたとの連絡が、養育園に入る。

○ 12月2日（月）

29日（金）からの社会福祉事業団（以下、「事業団」という。）の内部調査（職員への聞き取り調査）の結果、「職員Aが当該利用者に対する暴行を加えている現場を目撃した。」との情報が職員からあり、警察に対し提供した。

○ 前後

警察による捜査、県による事業団からの聴取、事業団による内部調査

○ 12月5日（木）

「先の職員Aを含む計5名が、当該利用者や他の利用者に対して、それぞれ暴行を加えていた。」との情報が職員からあり、警察に対して提供した。

○ 12月6日（金）

県から事業団に対し、現地に於て、利用者に対する適正な処遇の確認及び立入検査日（11日）の関係職員の待機を指示

○ 12月11日（水）

障害者総合支援法等に基づく立入検査実施

⇒ 事業団役員及び養育園職員（全20人）からの事情聴取における職員の自供又は証言により、養育園第2寮の5人の職員が、死亡した利用者に対し、それぞれ暴行を行っていたことが確認されるとともに、当該5人の職員が、通常の支援の中で、亡くなった利用者とは別に、利用者9名に対し、それぞれ暴行を行っていたことが確認された。

6 今後の対応

- 11日（水）の立入検査により、現在養育園第2寮所属の職員5名が、利用者に対してそれぞれ暴行していたことが確認されたが、このほか、検査時の職員の証言等により、以前第2寮に所属していた職員による暴行の疑義や、事業団が運営する他施設における暴行の疑義が確認されたことから、継続して、立入検査を実施する。

なお、立入検査員の増強により、事業団が運営する全入所施設に対する立入検査を速やかに実施する。

- 立入検査結果も踏まえ、事業団内部の業務管理の実態等について、外部の有識者も入れ、徹底的に調査し、問題点を究明する。

なお、問題の全容が究明されるまでの間においても、県職員の常駐も含めた現場チェック体制の強化を図る。

千葉県袖ヶ浦福祉センター養育園に対する立入検査について

平成 2 5 年 1 2 月 2 0 日
千葉県健康福祉部障害福祉課
0 4 3 - 2 2 3 - 2 3 5 2

千葉県袖ヶ浦福祉センター（指定管理者：社会福祉法人千葉県社会福祉事業団）養育園第 3 寮及び第 4 寮に対し、1 2 月 1 8 日及び 1 9 日に、障害者総合支援法等に基づく立入検査を実施しました。

1 立入検査の結果

（1）養育園第 3 寮職員（全 1 7 人）及び第 4 寮職員（全 1 0 人）並びに施設長からの事情聴取の結果、養育園第 3 寮及び第 4 寮において、暴行（児童虐待防止法に規定する「児童虐待」）は認められなかったが、職員の自供又は証言により、以下のことが確認された。また、これらについて、県へ報告されていなかった。

ア 養育園第 3 寮において、平成 2 4 年度に、1 人の職員（A）が、利用者 1 名に対して不適切な支援を行った。

イ 養育園第 2 寮において、平成 2 3 年度に、1 人の職員（B）が虐待を行っているとの目撃情報があり、リーダーを通じて施設長へ報告されていた。施設長及びサブマネージャーにおいて、養育園第 2 寮リーダー以下全職員からの聞き取り調査を行ったが、虐待ではないと判断し、以後具体的な対策を採らなかった。

（2）職員の証言等により、以下のことの疑義が認められた。

ア 養育園第 2 寮において、平成 2 3 年度に、1 2 月 1 1 日付立入検査で暴行を行っていたことが確認された 5 人とは別に、3 人の職員（B、C、D）が、少なくとも利用者 1 名に対し、それぞれ暴行を行っていた。

また、平成 2 3 年度に、職員（B）のほか、職員（E [前回暴行を行っていたことが確認された 5 人のうちの 1 人]）が虐待を行っているとの目撃情報があり、リーダーを通じて施設長へ報告されていた。

イ 養育園第 1 寮において、昨年春頃、1 人の職員（F [前回第 2 寮で暴行を行っていたことが確認された 5 人のうちの 1 人]）が、利用者 1 名に対し、暴行を行っていた。また、本年夏頃、1 人の職員（C）が、利用者 1 名に対し、暴行を行った。

また、昨年春頃の F の暴行については、それを目撃した職員から直接、施設長へ報告されていた。

（3）職員からの聴取の中で、県へ提出すべき利用者のケガ等に係る事故報告書に関して、これまで社会福祉事業団から県に提出されていなかった事案が 1 件確認された。また、県に対して事故による外傷として事故報告書が提出されている事案のうち 1 件について、当該外傷を発見した職員が、今回の検査により、暴行を行った疑義が生じた職員（B）であるため、暴行による外傷の疑義が生じた。

2 今後の対応

今回認められた疑義の解明も含め、全容の究明に向けて、継続して、事業団が運営する施設に対して立入検査を実施していく。

(参考) 施設の概要

| | |
|---|--|
| 名 称 | 袖ヶ浦福祉センター 養育園 (児童福祉法第42条第1号の規定による福祉型障害児入所施設) (障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第5条第12項に規定する障害者支援施設) |
| 定 員 | 80名 (うち第3寮19名、第4寮19名) |
| 所 在 地 | 袖ヶ浦市蔵波3108番の1 |
| 事業内容 | ・知的障害のある児童を入所させて、保護するとともに、日常生活の指導及び独立自活生活に必要な知識技能の付与を行う。 ・主に知的障害者に対して、入所・排泄・食事の介護等を行うとともに創作的活動又は生産活動の機会を提供する。 |
| 開設年月 | 昭和42年4月 |
| * 現在は、社会福祉法人千葉県社会福祉事業団（理事長：近藤敏旦）が、指定管理者として、施設の管理運営を行っている。 指定管理期間：平成23年度～27年度 | |

千葉県袖ヶ浦福祉センター養育園に対する立入検査について

平成 2 5 年 1 2 月 2 7 日
千葉県健康福祉部障害福祉課
0 4 3 - 2 2 3 - 2 3 5 2

千葉県袖ヶ浦福祉センター（指定管理者：社会福祉法人千葉県社会福祉事業団）養育園第 1 寮、第 5 寮ほかに対し、1 2 月 2 5 日及び 2 6 日に、障害者総合支援法等に基づく立入検査を実施しました。

1 立入検査の結果

(1) 養育園第 1 寮職員（全 1 5 人）、第 5 寮職員（全 7 人）、施設長、常務理事ほかからの事情聴取の結果、1 2 月 1 1 日付立入検査で暴行を行っていたことが確認された 5 人（A、B、C、D、E）以外で、養育園第 1 寮及び第 5 寮において、現時点で暴行（児童虐待防止法に規定する「児童虐待」）と認定するに至ったものはないが、職員の自供又は証言により、以下のことが確認された。また、これらについて、県へ報告されていなかった。

ア 養育園第 2 寮において、平成 2 3 年 1 2 月に、4 人の職員（A、F、G、I）が虐待を行っていると目撃情報がリーダーに上がり、サブマネージャーを通じて、平成 2 4 年 1 月に、施設長へ報告されていた。（うち少なくとも F のことについては、センター長（現常務理事兼センター長）まで報告されていた。）同月、施設長及びサブマネージャーにおいて、4 人を施設長室に呼び、口頭注意をした。（うち A、F のことについては、暴行と判断していた。）センター長に対しては、不適切な支援はなかったとの報告を行った。以後、具体的な対策は採られなかった。

また、平成 2 3 年夏頃、施設長は、1 人の職員 H から、利用者に対する支援についての相談を受け、不適切な支援と判断し、口頭注意をした。

（※暴行でないか継続調査中）

イ 養育園第 1 寮において、平成 2 4 年 9 月に、1 人の職員（X）が、利用者 1 名に対して、不適切な支援を行った。

また、本年夏頃、1 人の職員（G）が、利用者 1 名に対し、不適切な支援を行った。（※暴行でないか継続調査中）

さらに、昨年春頃、一人の職員（E）が、利用者 1 名に対し暴行を行っていたことを目撃した職員が、施設長へ報告したが、特段の対応は図られなかった。

ウ アドバンスながうらにおいて、平成 2 5 年 6 月に、1 人の職員（G）が、利用者 1 名に対して、暴言を吐いた。

(2) 職員の証言等により、以下のことの疑義が認められた。

ア 更生園第 2 において、平成 2 2 年度に、1 人の職員（J）が、利用者 1 名に対して、暴行を行った。

(参考) 平成25年12月20日付けで疑義が認められたとしたことの一部について

ア 「県へ提出すべき利用者のケガ等に係る事故報告書に関して、これまで社会福祉事業団から県に提出されていなかった事案が1件確認された。」としていた件については、平成19年4月に、1人の職員(K)が、利用者1人に対して、暴行を行っていたことが確認された。

イ 「養育園第2寮において、平成23年度に、前回暴行を行っていたことが確認された5人とは別に、3人の職員(F、G、H)が、少なくとも利用者1名に対し、それぞれ暴行を行っていた。」との疑義の一部に対して、「利用者の他害行為等を抑えるために馬乗りして体の一部を押さえつけることはあった。」旨の供述があった。(※暴行でないか継続調査中)

2 今後の対応

今回認められた疑義の解明も含め、全容の究明に向けて、継続して、事業団が運営する施設に対して立入検査を実施していく。

(参考) 施設の概要

| | |
|-------|--|
| 名 称 | 千葉県袖ヶ浦福祉センター 養育園 (児童福祉法第42条第1号の規定による福祉型障害児入所施設) (障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第5条第12項に規定する障害者支援施設) |
| 定 員 | 80名 (第1寮20名、第2寮14名、第3寮19名、第4寮19名、第5寮8名) |
| 所 在 地 | 袖ヶ浦市蔵波3108番の1 |
| 事業内容 | ・ 知的障害のある児童を入所させて、保護するとともに、日常生活の指導及び独立自活生活に必要な知識技能の付与を行う。 ・ 主に知的障害者に対して、入所・排泄・食事の介護等を行うとともに創作的活動又は生産活動の機会を提供する。 |
| 開設年月 | 昭和42年4月 * 現在は、社会福祉法人千葉県社会福祉事業団(理事長：近藤敏旦)が、指定管理者として、施設の管理運営を行っている。 指定管理期間：平成23年度～27年度 |

千葉県袖ヶ浦福祉センター更生園に対する立入検査について

平成 26 年 1 月 14 日
千葉県健康福祉部障害福祉課
043 - 223 - 2352

千葉県袖ヶ浦福祉センター（指定管理者：社会福祉法人千葉県社会福祉事業団）更生園第 1 ほかに対し、1 月 8 日、9 日及び 10 日に、障害者総合支援法等に基づく立入検査を実施しました。

1 立入検査等の結果

- (1) 更生園第 1（全 55 人）、第 2（全 66 人のうち 4 人）、施設長ほかからの事情聴取の結果、第 1 では暴行やその疑義は認められなかったが、第 2 では、職員の自供及び証言により、以下のことが確認された。

ア 平成 25 年 12 月 27 日付で、疑義が認められたとした「更生園第 2（第 1 班）において、平成 22 年度に、1 人の職員（J）が、利用者 1 名に対し、暴行を行った」件については、継続調査中であるが、同職員（J）について、更生園第 2 第 2 班において、平成 25 年 4 月に、利用者 1 名に対し暴行を行った。

同職員（J）は、上記の平成 22 年度のほか、平成 20 年度に第 1 班において利用者 1 名に対して、また、25 年 1 月に、第 2 班において別の利用者 1 名に対して、暴行を行った疑義が認められた。

また、これらの事案については、県へ報告されていなかった。

イ 更生園第 2 において、事故報告書（各支援員が作成しリーダーへ提出し、サブマネージャー、マネージャーの内覧を経て、施設長へ提出される、利用者の自傷や他害、けが等の事故に係る報告書）について、第 2 班リーダー（21 年度から 23 年度までは第 1 班リーダー）が、リーダー時に各支援員から提出を受けた 116 件のうち 72 件（平成 25 年度分 26 件（うち 1 件はアの暴行事案）、24 年度分 32 件、23 年度分 8 件、22 年度分 1 件、21 年度分 5 件）を自分のところで留め置き、施設長等へ提出されていないことが確認された。（※暴行でないか継続調査）

- (2) 施設長から、県へ報告・提出されていなかった過去の事故報告書 4 件（いずれも更生園第 2）の提出があり調査したところ、次の 2 件の暴行のほか、1 件の心理的な虐待（平成 21 年 4 月第 3 班）、1 件の不適切な支援（平成 21 年 6 月第 2 班）が確認された。

ア 平成 21 年 9 月に、第 4 班において、1 人の職員（M）が、利用者 1 名に対して、暴行を行った。

イ 平成 24 年 3 月に、第 4 班において、1 人の職員（N）が、利用者 1 名に対して、暴行を行った。

2 今後の対応

今回認められた疑義の解明も含め、全容の究明に向けて、継続して、事業団が運営する施設に対して立入検査を実施していく。

(参考) 施設の概要

- 名 称 千葉県袖ヶ浦福祉センター 更生園
(障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
第5条第12項に規定する障害者支援施設)
- 定 員 90名(第1支援グループ48名、第2支援グループ42名)
- 所 在 地 袖ヶ浦市蔵波3108番の1
- 事業内容 主に知的障害者に対して、入所、排泄・食事の介護等を行うとともに
創作的活動又は生活活動の機会を提供する。
第1支援グループ：主に、重度・高齢・厚介護・医療的ケアを要す
る利用者
第2支援グループ：強度行動障害及び行動障害を有する利用者
- 開設年月 昭和41年7月
- * 現在は、社会福祉法人千葉県社会福祉事業団(理事長：近藤敏旦)
が、指定管理者として、施設の管理運営を行っている。
指定管理期間：平成23年度～27年度

千葉県袖ヶ浦福祉センターにおける過去１０年間（平成１６年度から平成２５年度まで）の虐待事例

〔 今回の一連の立入検査で確認された５人の暴行を除く 〕

平成２６年１月１４日現在で確認されているもの

| 年度 | 虐待 類型 | 日時 | 施設 | 行為者 (当時) | 概要 |
|----|---------------|------------------|---------------|-------------|--|
| 25 | 身体的虐待 (暴行) | 4/23 | 更生園 第２ | 30代男性（J） | 作業指示に利用者が応じなかった際、利用者の首に手をかけ、引っ掻き傷を負わせた。 |
| 25 | 心理的虐待 (暴言) | 6/17 | アドバンス ながうら | 40代男性（G） | 早朝、帰省から戻った利用者に暴言を吐いた。 |
| 23 | 身体的虐待 (暴行) | H24 3/21 | 更生園 第２ | 40代男性（N） | 利用者を床に横にし、両足を長椅子の上に乗せて抑えた。 |
| 22 | 心理的虐待 (暴言) | 11/22 | 更生園 第２ | 20代女性 | 利用者の頭を押しながら、威圧的言動を行った。 |
| 21 | 心理的虐待 (暴言) | 4/22 | 更生園 第２ | 50代男性 | 利用者に襟首をつかまれ首を裂傷した際に、拳を顔に突き出し、利用者を威嚇した。 |
| 21 | 身体的虐待 (暴行) | 9/11 | 更生園 第２ | 40代男性（M） | 利用者の両足を持って引きずった後、エビ固めを行った。 |
| 19 | 身体的虐待 (暴行) | 4/6 | 養育園 第２寮 | 50代男性（K） | 利用者が職員に他害行為を行った際、過剰に反応し、首に傷痕が残るくらい、複数回、手で引っ掻いた。 |
| 19 | 身体的虐待 (暴行) | 9/17 | 更生園 第１ | 50代男性（L） | トイレの中にいる利用者に対し、モップを使って出るように促し、その際、利用者の右額に擦過傷を負わせた。 |
| 18 | 性的虐待 | H18 11月 上旬 | 更生園 第２ | 50代男性 | 入浴支援の際、男性利用者に対し、性的嫌がらせ行為を行った。 |
| 18 | 性的虐待 | H18 12月 上旬 | 更生園 第２ | 50代男性 | 入浴支援の際、男性利用者に対し、性的嫌がらせ行為を行った。 |
| 18 | 身体的虐待 (暴行) | H19 1月 上旬 | 更生園 第２ | 40代男性（M） | 興奮する利用者をソファに座らせ落ち着かせようとした際、太ももを踵で２回蹴った。 |
| 17 | 身体的虐待 (暴行) | 11/20 | 養育園 第４寮 | 40代男性（N） | 作業指示に利用者が応じなかった際、利用者の胸を突く、蹴る、突き倒すといった行為を行った。 |

注）アルファベット記号は身体的虐待（暴行）に付しており、J、G、Kは、２５年１２月２７日付発表資料の表記と同じ。